資料２

太子町立幼稚園幼児教育環境最適化委員会とは

いわゆる『幼児期』は、生活や遊びを通して自立心や感性を育み、集団生活における他者との関わりの中で規範性の芽生えや協同性、コミュニケーションの方法を学ぶことで主体性や社会的対応を身につけるなど、生涯にわたる人格形成の基礎が培われ、「生きる力」を育むために体験・経験に裏打ちされる極めて重要な時期です。

本町の幼稚園教育では、子どもが遊びを通して様々なことを学べるよう配慮し、『心身ともにしなやかでたくましい子ども』の育成に取り組むとともに、人や自然と触れ合う中で豊かな感性を育み、『人として生きていくための基礎』を培っています。

そのような中で、少子化や核家族化の進行、地域のつながりの希薄化などに加え、共働き世帯の増加や就労形態の多様化等の変化により、幼児教育を取り巻く環境は大きく変動しています。

国では、幼児期の教育や保育、地域の子育て支援の量の拡充と質の向上を推進するため、平成 27 年４月から「子ども・子育て支援新制度」を開始し、令和元年 10 月からは「幼児教育・保育の無償化」が実施され、より『子育て支援』がクローズアップされています。

本町では、園児数の減少に伴う町立幼稚園の統廃合、保護者要望の高まりを受けた３歳児保育の本格実施、預かり保育の保育料見直し及び実施時間の拡充など、町立幼稚園の今後のあり方をまとめた「太子町立幼稚園の今後のあり方」を令和５年７月に策定し、一定の方向性を決定しましたが、その時点からも状況は大きく変わり、改めて公立幼稚園の役割やあり方が問われています。

このような幼児教育を取り巻く環境の変化や、未就学児が減少している現状から、太子町における今後の幼稚園のあり方を改めて見直し、中長期的な方針を決定するため、「太子町立幼稚園幼児教育環境最適化委員会」にて、

○　町立幼稚園の配置及び規模の最適化に関すること。
○　町立幼稚園の今後の運営体制のあり方に関すること。
○　安全で質の高い幼児教育環境の整備に関すること。

について検討・協議し、学識経験者等の意見を踏まえた上で、今後の方針案を決定、太子町教育委員会へ提言するものとします。

「最適化」とは・・・

「最適化」とは、ある目的を達成するために、条件の中で最も良い状態や方法を見つけることを意味します。

・改善：今より良くすること
・最適化：複数の選択肢の中から、目的に対して最も良い状態を目指すこと

◎会社から家まで帰るとき、

・最短時間で帰りたい　→　「時間」を最適化
・最も安く帰りたい　→　「コスト」を最適化
・一番楽に帰りたい　→　「快適さ」を最適化

何を重視するか（目的）によって
「最適化」の内容が変わる

最適化とは、「何かを単純に良くする」ことではなく、
「目的に照らして最も価値の高い選択肢を見つける」こと

幼児教育の「最適化」例

○　幼児一人ひとりに合わせた学びの最適化
○　遊びと学びのバランスの最適化
○　ＩＣＴ活用の最適化
○　保護者との連携の最適化
○　施設（園）運営の最適化（統廃合、集約化）
○　経常経費の最適化
○　教育環境の最適化　など